

令和6年度ゼロカーボン研究会の概要と 第1回研究会の説明

事務局
(備前グリーンエネルギー株式会社)

令和6年度ゼロカーボン研究会の概要

【目的】

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現に向けた具体的な取組について調査・研究し、令和6年度以降に実現可能な事業等を創出すること。

【開催回数・時期】

合計3回のゼロカーボン研究会と、事業創出に向けた具体的内容を検討するためのゼロカーボン分科会を開催予定。

(**5月**、7月、10月)

【参加者】

産：各回テーマ毎に参加を希望する企業

学：各回テーマ毎に参加を希望する大学

官：岡山連携中枢都市圏構成市町、倉敷市など

令和6年度ゼロカーボン研究会の概要

【第1部】 事例研究

各回でテーマを決め、講師様から脱炭素化に資する情報提供を頂き研究会参加者で共有。得られた情報を岡山連携中枢都市圏や各団体での今後の取組みに活かす。

【第2部】 事業創出に向けた取組みについて

これまでの研究内容を活かし、岡山連携中枢都市圏全体、又は、一部の自治体や事業者において、脱炭素化に資する新たな事業を創出するための取組を行う。事業化を行うテーマを参加者の意見を伺い決定し、事務局が事業化に向けた支援を行うことで、年度内の事業化を目指す。

事例研究 テーマ『脱炭素化に向けた技術動向』

- 2024年4月にイタリア・トリノにおいて開催された「G7気候・エネルギー・環境大臣会合」では、世界での再エネ容量3倍目標に向け、蓄電池導入量を2022年までの230GWから、2030年度までに1500GWの6倍以上に拡大する目標が掲げられた。
- 蓄電池の普及に向けた課題解決のため急速に技術革新が進んでいる。

G7気候・エネルギー・環境大臣会合の様子

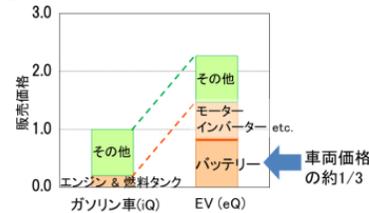


出典：経済産業省

今後解決が求められる蓄電池の課題

高価

電池コストは低下傾向であるが、EVの製造コストの1/3程度を占めるなど現時点では高価。定置用の普及の観点でも更なる低減は必要。



エネルギー密度不足

ガソリン車並の走行距離を達成するためには、エネルギー密度の更なる向上が必要。



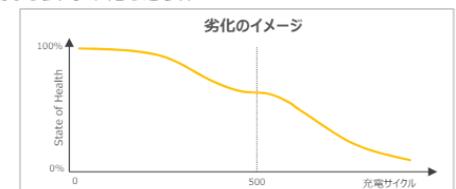
充電時間長

急速充電器でも充電まで30～60分程度かかるなど充電時間の短縮も課題。



経年劣化(容量・出力低下)

使用条件によっても異なるが、500回くらいの充放電を繰り返すと劣化がかなり進む可能性。社会インフラとして活用するには更なる長寿命化も必要。



出典：経済産業省 蓄電池産業の現状と課題について 2021年11月

事例研究 テーマ『脱炭素化に向けた技術動向』

- 建築物のゼロカーボン化は、建築物の運用時だけではなく、建築時から廃棄時までが発生するCO₂（ライフサイクルCO₂：LCCO₂）も範囲に含めるという考え方がグローバルスタンダードとなりつつある。
- また令和6年度の環境省の事業では、ライフサイクルCO₂削減型建築物の普及拡大を支援する事業が盛込まれた。

LCCO₂削減を重視した新築業務用施設のZEB化に資する高効率設備導入等の取組を支援します。

1. 事業目的

- ・ 建築物分野においてZEB化を促進するにあたり、運用時の脱炭素化のみならず建築物のライフサイクルを通じて脱炭素化を目指す先導的な建築物への支援によって2050年のカーボンニュートラル実現をリードする。
- ・ 建築物における更なる付加価値向上の可能性を模索し、快適で健康な社会の実現に貢献する。

2. 事業内容

① LCCO₂削減型の先導的な新築ZEB支援事業（国土交通省連携事業）

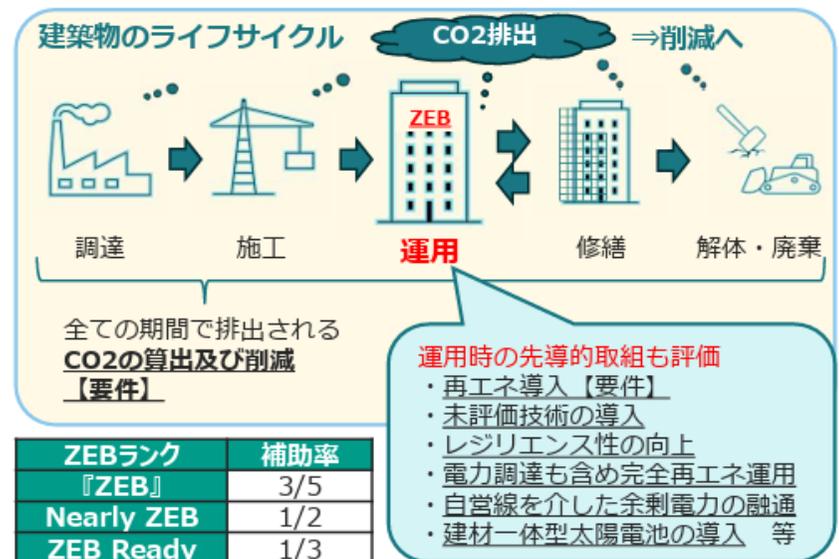
建築物の運用時及び建築時、廃棄時に発生するCO₂（ライフサイクルCO₂：LCCO₂）を削減し、かつ先導的な取組を行うZEB建築物の普及拡大のため、下記の要件を満たす建築物についてZEB化に資するシステム・設備機器等※1の導入を支援する。

- ◆補助要件：ZEB Ready基準以上の省エネルギー性能を満たし、（1）事業と同様にエネルギー管理体制の整備、ZEBリーディング・オーナーへの登録、ZEBプランナーの関与等がある上で、LCCO₂の算出及び削減、再エネの導入等を要件とし、付随する運用時の先導的な取組も採択時に評価する。
- ◆特に評価する先導的な取組：災害に対するレジリエンス性の向上、自営線を介した余剰電力の融通、建材一体型太陽光電池の導入 等
- ◆優先採択：以下に該当する事業については優先採択枠を設ける。
 - ・補助対象事業者が締結した建築物木材利用促進協定に基づき木材を用いる事業
 - ・CLT等の新たな木質部材を用いる事業 等

② ZEB化推進に係る調査・検討事業

建築物の脱炭素化・ZEB化を先導・推進するために必要な調査・検討等を行う。

4. 事業イメージ



事例研究 テーマ『脱炭素化に向けた技術動向』

【講演の観点】

今回の研究会では、急速に技術革新が進む蓄電池と、ゼロカーボンビルという建築物の脱炭素化の新たな方向性について、下記の講師様より最新動向を伺い、脱炭素化に向けた知識をアップデートし、今後の取組み方について考える。

本日の講演内容

内容	講師
(1) 蓄電池を活用したPowerXのエネルギーソリューション	株式会社パワーエックス
(2) 地域産木材を活用したゼロカーボンビルの実現	大成建設株式会社